

研究課題名：腹部ステントグラフト内挿術後のタイプⅡエンドリークに対する IVR：
技術的側面と予後についての後方視的研究

研究意義；

腹部ステントグラフト内挿術後の特有な現象として、ステントグラフト留置後により大動脈瘤内圧が減少することにより、瘤の分枝から逆流して瘤内へ血流が入り込む現象（タイプⅡエンドリーク）があります。多くは自然に血栓化するため経過観察が可能ですが、なかには消退せず残存し、大動脈瘤の再増大の原因となって IVR (Interventional Radiology：画像ガイド下治療) による追加治療が必要となることがあります。今回の研究の目的は、タイプⅡエンドリークにより追加治療が必要と判断され、IVR 治療を受けられた症例の治療結果を全国的に調査し、治療成績を検討することです。タイプⅡエンドリークに対する IVR 治療はしばしば難渋し、施設間での治療方針も統一されておらず、全国的な治療成績の十分な調査はなされていないのが現状です。今回、このような全国的調査を行うことにより、IVR 治療の現状を知ることができます。さらに、技術面と治療効果についても焦点を当てて検証します。したがって、本研究の結果は、今後のタイプⅡエンドリークに対する IVR 治療を行う上での道標となる可能性があります。

対象；

当院で 2007 年 1 月から 2017 年 12 月までに、当院においてタイプⅡエンドリークに対して IVR を施行された患者様が対象となります。

個人情報の取り扱い；

収集した情報は、名前などの患者様を特定できる個人情報を除いて匿名化致しますので、個人を特定できるような情報が、外に漏れる可能性はありません。また、研究結果は学会や学術雑誌などで発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

患者様へのご負担；

本研究は、過去に施行された治療を、後方視的に検討するのみであり、患者様に新たな検査や費用の負担はありません。また、研究の対象となる患者様に対しての謝礼もありません。

上記の研究対象に該当する患者様で、ご自身の検査結果や治療結果の本研究への使用をご承諾頂けない場合には、奈良県立医科大学 放射線科までご連絡ください。

お問い合わせ先 奈良県立医科大学 放射線医学教室

研究代表者 岩越 真一

連絡先 0744-29-8900 (放射線科医局直通)